

♪ 2023年度 *poco a poco* ♪

Nr. 14 2023年10月25日(水)

文責:プファイル・辰巳

2学期後半のスタートです!

みなさんが一番好きな季節は、四季の中のどれですか。日本のある調査結果によりますと、「秋」と答えた人が「春」よりも多く、四季の中で一番人気だったそうです。理由は「食べ物おいしいから」「過ごしやすい季節だから」などが挙げられるそうです。

ところがドイツの調査では、「夏」が一番人気で「春」が第2位。「秋」「冬」はあまり人気がないようです。ドイツでは冬の寒さが厳しく、秋はその冬に向かって暗く、寒くなっていく寂しさの感じられる季節だからでしょうか。

さて秋休みが終わり、その厳しい冬将軍の足音も聞こえてきそうな季節になりました。今週末には冬時間へと切り替わり、日暮れもぐっと早まります。寒さや暗さに負けないで、明るい気持ちや健康な身体を大切に、これからの季節を乗り切りましょう! 2学期後半もよろしくお願いいたします。

音楽こぼれ話 <10月生まれの作曲家たち>

10月生まれの作曲家は何人もいますが、今日はちょうどこの時期(10月25日~27日)に生まれた3人の作曲家を紹介したいと思います。

まずは10月25日生まれの作曲家ジョルジュ・ビゼーです。1838年にパリで生まれたフランス人。代表作はもちろん有名なオペラ「カルメン」です。カルメンのお話の舞台がスペインなので、ビゼーをスペインの作曲家だと思ってしまう人もいますが、フランス人です。「カルメン」はフランス語の台本に作曲されています。

ビゼーはヘビースモーカーだったそうで、のどの病気のため36歳という若さで亡くなりました。ショパンと共にパリのペールラシューズ墓地に葬られています。



10月26日生まれの作曲家は、イタリア人作曲家のドメニコ・スカルラッチィです。1685年、イタリアのナポリに生まれました。同じ年、ドイツではJ.S.バッハとヘンデルというバロック音楽の二大巨匠が生まれており、ドメニコ・スカルラッチィも入れると「1685年生まれトリオ作曲家」になります。

ドメニコの父、アレッシンドロも作曲家で、バッハ家と同様、スカルラッチィ家も音楽一家でした。ドメニコ・スカルラッチィは少年時代からオルガン奏者として活躍し、鍵盤楽器の作品をたくさん作曲しました。イタリアらしい明るく軽快な響きを持つ作品は、現在もピアノやチェンバロでよく演奏されます。71歳と、音楽家としては長生きをして、スペインで亡くなりました。

最後は、10月27日生まれの作曲家ニコロ・パガニーニです。スカルラッチィと同じイタリア生まれですが、1782年ですから100年ほどの年齢差があります。ジェノヴァで生まれました。パガニーニはヴァイオリンの名手で、ヴァイオリンの曲を残していますが、演奏家としての評価の方が高かったといえるかもしれません。そのヴァイオリン演奏技術は、聴いた人から「まるで悪魔にでも取りつかれているのではないか。」と言われるほど高度だったそうです。

パガニーニも少年時代から病弱で、様々な病気のために多量の服薬をしていたので、その副作用で亡くなったのではないかと言われています。サルディーニャ島にて、57歳でその生涯を閉じました。

生まれた時代はそれぞれ異なりますが、10月25、26、27日とお誕生日が連続しているのがちょっと興味深いなと思い、3人の作曲家を紹介しました。

ちょっとだけ 演奏会情報

ヴィースバーデン歌劇場の12月の演目より

フンパーディンク作曲

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」

(クリスマスの時期の定番。

子どもたちもたくさん鑑賞します。)

12月17日(日) 19:30

20日(水) 19:30

23日(土) 19:30

25日(月) 19:30

28日(木) 19:30

